

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞「銅賞」

今、知るべきこと

加須市立加須西中学校

一年

佐藤 柑南

「税金なんてなければいいのに。」

と以前の自分だったら考えていたに違いない。

税金といっただけに思いつくものといえば、消費税、住民税、所得税といったものだろうか。その内で、私にとって一番身近な税は、消費税だ。

消費税とは物を買ったりサービスを利用したりするときにかかる税のことを指す。例えば、百十円のノートを買ったとしたら、百円はノート代で十円は消費税分なのだ。

これは、私が買い物をした時に起きた出来事だ。そのころ私は消費税といったものをよく知らなかった。当時は、いくつかの文ぼう具を買おうとしたのだが、店員さんに、お金がたりないと言われてしまった。

「ぴったりの金額のはずなのにどうして。」

と私は思った。そして、そのことをインターネットで調べた。このことが私に消費税を意識させるきっかけになったのだ。

同時に、税金をかん違いするきっかけともなった。必要ないとも思ったし、あるべきではないと考えた。

そんな私が考えを改めることとなったのは、小学生のころにあった税の授業が関係している。授業ではビデオを見たのだが、

その内容は驚きと正しい知識を私に与えた。ビデオの内容というのは、税金が無くなれば日本中のどのサービスも有料になるというものだ。公園も図書館も警察なにもかもが。

税金を滞納するということは、公平であるべき税を乱すことにつながるかねない。どうしても税金という悪い面が目立ちやすいのだが、税を納めることは社会を成り立たせることには必要不可欠なのだ。

公平な地域社会を保つために、私たちにも出来ることがあるのだろうか。まず第一にするべきことは税金について知ることだ。そのことを意識すれば、公平な地域社会を保つことだけでなく、助けを必要としている人々に必要なサービスを提供することにつながる。

私はこれから大人になっても税金を納めたいと思う。これは、この社会で暮らす最低限の義務であり、責任なのだ。

過去に自分が正しい税の知識を知ったように、税の悪い面ばかり見ていないで正しい知識を知ってほしい。税について知ることとは大人にも子供にとっても大切だ。

これから作っていく社会を決めるのは私たち子供である。私は正しい知識と責任を持って大人になりたいと思う。